

# 放射性物質の農産物等への影響調査について（第176報）

平成26年1月31日

埼玉県は、国の協力を得て東京電力福島第一原子力発電所の事故に伴う放射性物質の農産物等への影響調査を実施しています。

今回の調査では、野菜及び市場流通品について検体を採取し分析を行った結果、全ての検体において検出限界値を下回りました。

## 1 野菜の調査結果

採取日：平成26年1月27日、28日

結果判明日：平成26年1月30日

分析機関：一般財団法人 材料科学技術振興財団

社団法人 埼玉県食品衛生協会 検査センター

品目	産地 市町村名	放射性物質 (Bq/kg)		
		放射性セシウム 134	放射性セシウム 137	放射性セシウム 計
ミズナ	三郷市	< 4.75	< 5.65	—
ブロッコリー	熊谷市	< 5.26	< 4.83	—
トマト	加須市	< 4.71	< 4.81	—
ミニトマト	滑川町	< 3.4	< 6.0	—
イチゴ		< 3.6	< 4.9	—
基準値 (一般食品)				100

※ 「<0.00」とは、検査機器で測定できる検出限界値（3.4～6.0Bq/kg）未満であることを示す。

## 2 市場流通品（他県産畜産物）の調査結果

採取日：平成26年1月27日

結果判明日：平成26年1月27日

分析機関：埼玉県食肉衛生検査センター

品目	産地	放射性物質 (Bq/kg)		
		放射性セシウム 134	放射性セシウム 137	放射性セシウム 計
鶏肉	千葉県 匝瑳市	< 25		—
		< 25		—
		< 25		—
		< 25		—
基準値 (一般食品)				100

※ NaI（シンチレーションスペクトロメータ）によるスクリーニング分析。

※ 「<25」とは、検査機器で測定できる検出限界値（25Bq/kg）未満であることを示す。

(注) 検査機関では厚生労働省が示した試験法に基づいて検査を実施しておりますが、食品の放射性物質検査の特性上、検出限界値は、検体や検査機器によって異なります。

**【問合せ先】**

**(野菜については)**

農林部 農産物安全課  
有機・安全生産担当 長嶋・中村  
直通 048-830-4057  
内線 4057  
E-mail: a4070-05@pref.saitama.lg.jp

**(市場流通品については)**

保健医療部 食品安全課  
監視・食中毒担当 吉永・渋谷  
直通 048-830-3611  
内線 3611  
E-mail: a3420@pref.saitama.lg.jp